

料金
全回無料

島根大学医学部附属病院 子どものこころ診療部 不登校に関する講演シリーズ

医療編 2026年2月15日(日) 12:30～16:30 予定



診察室からの 不登校支援

小柳 憲司 氏

長崎県立子ども医療福祉センター所長



学校健診で防ぐ 不登校と心身症

土生川 千珠 氏

独立行政法人国立病院機構
南和歌山医療センター小児科

教育編 2026年8月23日(日) 13:00～16:30 予定



不登校と社会の まなざしの変化

山田 哲也 氏

一橋大学大学院
社会学研究科教授

実践・調査紹介

- ① 公民連携の不登校支援
石飛紫明氏 (雲南市教育支援センターおんせんキャンパス)
- ② “学びの保障” フリースクールの役割
大國貴之氏 (フリースクール RE わくく 松江未来学園)
- ③ 居ることを支える学校づくり
神崎真実氏 (京都教育大学教育学部講師)
- ④ 支え合う教師文化と子ども支援
栢森和重氏 (三重県名張市教育委員会、元三重大学大学院教授)

みんなで考える編 2026年11月15日(日) 13:00～16:00 予定

学生の
参加歓迎



学校が苦しいと 感じるあなたへ

貴戸 理恵 氏

関西学院大学社会学部
社会学科教授



評価で縛らない 社会を考える

勅使川原 真衣 氏

組織開発コンサルタント

居場所編 2027年2月14日(日) 13:00～16:00 予定



“学校”だけに頼らない、 新たな子どもの 居場所の形

阿比留 久美 氏

早稲田大学文学学術院教授



子どもの孤独・孤立の 予防とアドボカシーの 実践

小澤 いぶき 氏

一般社団法人 Everybeing 共同代表／
児童精神医・精神科専門医・精神保健指定医

講演内容

医療編

小柳憲司氏（こやなぎ・けんし）

学校に行けないことを相談に来る子どもたちに、診察室でどう向き合い、信頼関係を築き、支援を始めていくかを考えます。子どもたちの心や体、家庭や学校などの環境に配慮した関わり方や、医療・福祉・教育が協力することの大切さについてもお話しします。

土生川千珠氏（はぶかわ・ちず）

思春期の子どもが感じる「なんとなくの不調」を学校健診で早く見つけることが、不登校の予防につながります。この講演では、小さな変化に気づき、学校と病院が協力して早めに支援することの大切さを学び、健診を子どもたちの心と体の変化に気づく場としてどう活かすかを考えます。

教育編

山田哲也氏（やまだ・てつや）

不登校の支援に大切な「子どもを見る目」の変化に注目し、不登校がこれまでどう受け止められてきたかを振り返りながら、最近の法律や制度（たとえば教育機会確保法）にもふれ、学校の中だけでは支えにくい子どもたちをどのように支援できるのかを考えていきます。

石飛紫明氏（いしとび・しあき）

全国的に不登校支援における公民連携の取り組みが注目されています（例えば長野県）。本講演では、雲南市で展開されている「おんせんキャンパス」の活動や実践についてお話しいただき、地域の行政・学校・民間が連携して行う不登校支援の具体的な取り組みとその効果を学びます。

大國貴之氏（おおぐに・たかゆき）

文部科学省の方針転換により、再登校のみを目的としない不登校支援や、学校外での学びの教育的価値が認められるようになりました。こうした中で、フリースクールの役割はますます重要になっています。本講演では、松江市・出雲市で活動するフリースクールREわっくの実践を通して、その役割と今後の課題について考えます。

神崎真実氏（かんざき・まみ）

不登校経験者を受け入れる高校の実践調査から、支援を生徒や教師の責任に帰すのではなく、「場のデザイン」として捉え直す視点を提示します。安心して「居ること」ができる環境が、様々な活動の展開につながる可能性についてお話しします。

栢森和重氏（かやもり・かずしげ）

教員が一人で抱え込まず、学校全体で子どもを支えるためには、教師同士の関係性の見直しが欠かせません。小学校における“同僚性”に着目し、教員間の連携や協働のあり方を考えながら、孤立しがちな教師の姿や、支え合える職場づくりの工夫についてお話しします。

みんなで考える編 学生の参加歓迎

貴戸理恵氏（きど・りえ）

学校では「みんなに合わせる」ことが大切にされがちですが、それが苦手でつらい思いをする子もいます。この講演では、「みんなと同じじゃないとダメ？」という問いを通して、自分らしく安心して過ごせる関係づくりを考えます。

勅使川原真衣氏（てしがわら・まい）

大人の社会では「できること」で人の価値が決まりがちですが、それが苦しく感じることもあります。この講演では、「つながり」を大切にしたい生きやすい社会や、みんなが“ちがっていい”と思える関係づくりについて考えます。

居場所編

阿比留久美氏（あびる・くみ）

過度に競争的な環境では、みんなが安心して自分を出すのは難しく、違いを持つ子どもほど孤立しやすくなります。この講演では、学校だけにとどまらず、子どもが安心して過ごせる多様な居場所の大切さと、社会全体で支えるあり方を考えます。

小澤いぶき氏（おざわ・いぶき）

子どもや若者の孤独は見えにくく、声をあげることも難しいことがあります。この講演では、子どもの権利とウェルビーイングの観点から孤立を防ぐ社会のあり方を考えます。子どもの声を大切にし、地域や行政がどう関わるかを一緒に探ります。

右記二次元コードは、参加希望の事前登録フォームです。

開催方法や内容などの詳細が決定した後、正式な参加申込のご案内をお送りします。

ご登録いただいた方には、詳細が決まり次第、順次ご連絡いたします。

<https://forms.gle/oTrXq1Zc6jLru9p89>



主催：島根県子どもの心の診療ネットワーク事業